

## 2 型糖尿病患者を支える看護に関する研究の動向

小田嶋 裕 輝

### 要 約

2 型糖尿病患者を支える看護に関する国内外の研究の動向を整理し 2 型糖尿病患者の特性、支援の特徴、支援による効果について知見を得ることを目的とした。その結果、2 型糖尿病患者の特性として、2 型糖尿病患者は、療養行動上の困難を抱えている可能性や看護師による療養支援の必要性が高いこと、2 型糖尿病患者の QOL は、合併症歴、治療内容、セルフケア行動、社会的支援の程度、サポートグループへの参加の程度等と関連していることなどが明らかになった。2 型糖尿病患者への支援の特徴として、看護師の支援は、患者の背景情報を踏まえた生活者としての視点や、患者の過去・現在・未来という生活過程を見据え、ケアの連続的な視点をもって支援を行うという点に特徴があることなどが明らかとなった。2 型糖尿病患者への支援方法とその効果として、看護師による 2 型糖尿病患者への支援方法は、患者の自己管理目標を達成したり、学習過程を支援するものであり、その効果として患者の療養生活上の心理的負担感の軽減や行動変容があることなどが明らかとなった。

キーワード：2 型糖尿病、患者支援、看護

### I 研究背景

平成24年国民健康・栄養調査<sup>1)</sup>によると、糖尿病の国内患者総数は950万人と推計され、同様の調査の行われた平成19年度比で60万人増加している。また、平成26年度国民医療費の概況<sup>2)</sup>によると、糖尿病に要する医療費は1兆2,196億円に達し、平成25年度比で120億円増加している。従って、糖尿病の発症や進展の予防をいかに図っていくかは国民的課題であるといえる。

そもそも糖尿病とは「インスリン作用不足による慢性の高血糖状態を主徴とする代謝疾患群」である<sup>3)</sup>。つまり、糖尿病とは、血糖値が正常に保てないという生理構造の歪みにまで至ってしまい、内部環境の恒常性が維持できなくなった状態である<sup>4)</sup>。

糖尿病へ至る過程には、膵臓のβ細胞の肥大や増殖により代償を図る機能レベルの歪みの段階から、β細胞が徐々に障害されていく実体レベルの歪みの段階までである<sup>4)</sup>。そのため、代償機構が働いている段階では、患者の代謝と運動が見合うようにすることが必要であり、代償機構が働いていない段階ではインスリンを投与し続けることが必要となる<sup>4)</sup>。

糖尿病の合併症には、腎症、神経症、網膜症、脳梗塞、心筋梗塞などがある。また、視覚障害の原因の15%<sup>5)</sup>、透析導入の原因の44%が糖尿病の合併症によるものと報

告されている<sup>6)</sup>。そして、この合併症の予防には高血糖状態を招かないための血糖コントロールが必要である<sup>7)8)</sup>。

糖尿病の中でも、2 型糖尿病は生活習慣の不良に起因するインスリン抵抗性が関与していると言われる<sup>9)</sup>。2 型糖尿病患者10名を対象にした質的研究で、2 型糖尿病の自己管理は【食事療法が基本】であることや【自己管理により病状が改善する】ことは理解しているが、【生活に活かせるほど理解していない】ことが報告されている<sup>10)</sup>。特に患者自身の食事療法の実態を報告した研究では、食事療法を主体的に取り組もうとする気持ちが実践に結びつきにくい現状や罹患期間が長くなるほど食事療法への意欲が低下すると報告している<sup>11)</sup>。

2 型糖尿病患者は自身の生活習慣を改善しなければならぬが、それに伴う療養生活上の心理的負担感が大きいとされる<sup>12)13)</sup>。2 型糖尿病患者を支える看護という観点からこれまでの研究の動向を整理することで、2 型糖尿病患者への理解が深まり、エビデンスに基づく支援について示唆が得られると考える。

そこで、本研究は、2 型糖尿病患者を支える看護に関する国内外の研究の動向を整理することで2型糖尿病患者の特性、支援の特徴、支援による効果について知見を得ることを目的とした。

## II 研究方法

国内文献は、医学中央雑誌Web版を用いて、検索式を「糖尿病患者」and「支援」とし、「原著論文」と「看護文献」に限定して検索を行い、150件が該当した（検索日：2014.2.24）。さらに、2004年以降、学会誌に発表された文献に限定し、2型糖尿病患者を対象にした研究を選定し、22件が該当した。その中から、1病院の実践報告、一般人を対象にしたもの、尺度開発の計3件を除き、19件を分析対象とした。

海外文献は、CINAHLを用いて、検索式を「diabetes」and「type 2」and「support」and「nursing」not「children」とした。「diabetes」と「type 2」はtitleに限定し、「support」、「nursing」、「children」はtitleに限定せずに入力した。検索の結果、52件が該当した（検索日：2014.2.24）。52件のうちarticleに限定したところ43件が該当した。さらに、2004年以降に限定した32件のうち、英語文献でないもの6件、supplement 6件、および、患者を対象としていないもの1件、実証研究でないもの1件を除き、18件を分析対象とした。

## III 国内研究

### 1. 2型糖尿病患者の特性

2型糖尿病患者の特性についての研究は4件であった。2型糖尿病患者の自己管理は、主体的に療養生活に取り組める程度まで深まっていない現状があると報告していた<sup>10)</sup>。特に食事療法への努力の実態を報告した研究では、食事療法を主体的に取り組もうとする気持ちが実践に結びつきにくい現状があることや罹患期間が長くなるほど食事療法への意欲が低下すると報告していた<sup>11)</sup>。また、2型糖尿病の再入院患者を調査した研究では、療養生活の支援者がいる割合は低く、療養生活において孤独を感じ、都合の良い判断によって療養行動の中断や低下を招いていることを報告していた<sup>14)</sup>。さらに、自己管理に困難を抱えている患者やソーシャルサポートが低い患者は2型糖尿病に対する心理的負担感が高くなる傾向があると報告していた<sup>15)</sup>。

これらの研究から、2型糖尿病患者は、療養行動上の困難を抱えている可能性が高く、看護師による療養支援の必要性が高いと示唆された。

### 2. 2型糖尿病患者への支援の特徴

2型糖尿病患者への支援の特徴に関する研究は11件であった。

看護師は、患者の生活状況を踏まえながら<sup>16)</sup>、2型糖尿病と向き合えるように支援し、実施した効果を実感できるように働きかけつつ、2型糖尿病の自己管理への心理的負担感や孤立感を緩和する支援や<sup>17)</sup>、今後の療養生

活のあり方を患者が見出せるような支援を行ってゆくことの必要性が示唆されていた<sup>18)</sup>。また、医療者の支援と、首尾一貫感、2型糖尿病による心理的負担感との関連性を調査した研究では、生活上の情報提供、励まし、治療法への参加を促すなどの看護師による支援が2型糖尿病患者の首尾一貫感と関連していることを報告していた<sup>19)</sup>。また、外来2型糖尿病患者への電話訪問による看護の内容を分析した研究では、知識・技術の提供、判断の提示、情報提供などがあることを報告していた<sup>20)</sup>。さらに、高齢の2型糖尿病患者への看護においては、高齢者の身体状況や生活状況に応じた治療法が行われていない現状が報告され、高齢者の状況に応じた技術支援を工夫する必要性や、患者やその家族の生活の継続を支えるための支援の必要性を報告していた<sup>21)22)23)</sup>。

次に、熟練看護師を対象にした調査では、2型糖尿病の受容段階にある、2型糖尿病の実感がない、2型糖尿病を軽視しているなど初期患者の特性を活かした支援の必要性を報告していた<sup>24)</sup>。また、食事療法の自己管理が困難な患者に対して熟練看護師がアセスメントの質を高めるために必要なことを調査した研究では、生活者の視点に立って患者を信じ、正直に何でも話し合える信頼関係を築くことの重要性を報告していた<sup>25)</sup>。また、2型糖尿病看護を専門とする看護師には、過去・現在・未来というケアの連続的な視点を持ち、患者の揺れ動く感情とともに、生活状況、仕事や家族との関係性などの背景情報を組み合わせながら判断を行うことが求められると示唆されていた<sup>26)</sup>。

これらの研究から、2型糖尿病患者への支援には、患者の背景情報を踏まえた生活者としての視点や、患者の過去・現在・未来という生活過程を見据え、ケアの連続的な視点をもっていくという特徴があると示唆された。

### 3. 2型糖尿病患者への支援方法とその効果

2型糖尿病患者への看護介入の効果を調査した研究は4件であった。

看護師が患者とともに設定した相互目標の達成に向けて遠隔看護を行った結果、医療者や家族・友人からのソーシャルサポートへの患者の認識を上昇・強化させ、自己効力感を高め、2型糖尿病に関連した心理的負担感を軽減し、行動変容を促進したとの報告があった<sup>27)</sup>。また、2型糖尿病患者への自己管理支援システムを用いた遠隔看護により、自己管理行動に影響を及ぼした要因を明らかにした研究では、1日の歩数やシステムへの入力状況が自己管理に影響を与えていることを報告していた<sup>28)</sup>。さらに、弁当箱を活用して食生活支援を行った効果を質的に分析した報告では、弁当箱を用いることが患者自身の食内容の目安を洗練していく学習過程を支援すること

を報告していた<sup>39)</sup>。また、マッサージにより身体の心地よさに働きかけることで、患者自身が自分の生活を省察し自らを癒す力を引き出されることを報告するものもあった<sup>30)</sup>。

これらの研究から、看護師による2型糖尿病患者への支援方法は、患者の自己管理目標を達成したり、学習過程を支援したりするものであり、その効果として患者の療養生活上の心理的負担感の軽減や行動変容があることが示唆された。

## IV 海外研究

### 1. 2型糖尿病患者の特性

2型糖尿病患者の特性についての研究は5件であった。

2型糖尿病患者のQuality of life（以下、QOLとする）は、糖尿病合併症歴、高血糖治療薬の使用、うつぶの程度、収入、主観的な社会的支援の程度と関連することや<sup>31)</sup>、セルフケア行動、経済状況、入院の頻度と関連することを報告していた<sup>32)</sup>。2型糖尿病患者のQOLと社会的支援やセルフケア行動と関連についての報告は他の報告でも同様にみられた<sup>33)</sup>。また、2型糖尿病患者の健康指標は、地域のサポートグループに参加することや、運動頻度を増やすこと、質の高いフットケア能力を持つことと関連することを報告していた<sup>34)</sup>。さらに、2型糖尿病患者の肯定的な経験には、生活改善の機会を設けるなど前向きな認識の持ち方、気晴らし、社会とのつながりなどの心の触れ合いがあることを報告していた<sup>35)</sup>。

これらの研究から、2型糖尿病患者のQOLは、合併症歴、治療内容、セルフケア行動、社会的支援の程度、サポートグループへの参加の程度などと関連していることを示唆した。また、2型糖尿病患者の肯定的な経験には、前向きな認識の持ち方や、気晴らし、心の触れ合いが関与していることを示唆した。

### 2. 2型糖尿病患者への支援の特徴

2型糖尿病患者への支援の特徴についての研究は5件であった。

2型糖尿病患者の受ける治療に関して、集団教育を効果的に活用した支援により治療が受け入れやすくなることを報告していた<sup>36)</sup>。また、治療法の意味決定支援は根拠を明示しながら行う必要があることや<sup>37)</sup>、患者個々のニーズを踏まえた治療が受け入れられるように個別支援する必要があることを報告していた<sup>38)</sup>。さらに、患者が看護師に求める支援には、①患者を承認してくれること、②病気の過程に沿った指導をしてくれること、③患者が自信や独立性をもて、安心できることがあることを報告していた<sup>39)</sup>。そして、このような役割は地域看護師においても必要であることが示唆されていた<sup>40)</sup>。

これらの研究から、看護師の支援は、患者への集団教育を効果的に活用しながら個別性に応じた支援を根拠に基づきながら行っていくという支援の特徴があると示唆された。

### 3. 2型糖尿病患者への支援方法とその効果

2型糖尿病患者への看護介入の効果を調査した研究は8件であった。

診療所の看護師によるインフォームドチョイスや、合併症予防教育、意思決定支援、糖尿病以外の持病のケア、患者の自己管理能力を高める支援などによって、ヘモグロビンA1cや、収縮期血圧、ヘルスケア利用の頻度が減少したことを報告していた<sup>41)</sup>。また、健康教育理論や自己効力感理論に基づいて患者の食事行動や活動内容の改善を支援した研究では、血糖コントロールへの自己効力感や行動が改善したことを報告していた<sup>42)</sup>。また、オレムのセルフケア理論に基づいてセルフケア能力の促進を図った研究では、食事のコントロールや、運動量、薬物の内服の順守の程度、衛生意識が高まったことを報告していた<sup>43)</sup>。さらに、看護師によりサポートを受けた、医療者でない者による電話支援によって、患者の血糖コントロールの改善が図られたことを報告していた<sup>44)</sup>。また、電話による患者の日々の療養に関わる支援の効果を調査した研究では、血糖コントロールへの影響は不明であるが、治療に対する患者の受容や満足度が高くなったことを報告していた<sup>45)</sup>。さらに、患者変容の動機づけを引き出すことを内容とするカウンセリングアプローチを行った研究では、自分のケアに責任を持つ、自分の優先度や必要とするものを理解する、看護師による支援を受けられていると感じる等の語りが得られたことを報告していた<sup>46)</sup>。

一方、介入効果がなかった報告は2件であった。プロトコルに則った地域看護師の介入が患者のQOLに及ぼす影響を調査した研究では、QOLとの関連は否定されたが、対象集団のニーズをより理解したうえで介入を行うことの必要性を示唆していた<sup>47)</sup>。次に、2型糖尿病患者の冠動脈疾患予防のための生活習慣行動変容プログラムの効果を検証した研究では、プログラムを受けても健康行動につながることはなかったが、患者の満足度は高かったことを報告していた<sup>48)</sup>。

以上の研究を総括すると、看護師による2型糖尿病患者への支援方法は、患者の自己管理能力を高める支援と位置づけることができる。さらに、その効果として血糖コントロールが図られることや、治療への受容や満足度を高めることが挙げられていた。

## V まとめ

2 型糖尿病患者への支援に関する研究について国内外の文献を検討した結果、2 型糖尿病患者の特性について以下の 3 点が示唆された。① 2 型糖尿病患者は、療養行動上の困難を抱えている可能性が高く、看護師による療養支援の必要性が高い。② 2 型糖尿病患者の QOL は、合併症歴、治療内容、セルフケア行動、社会的支援の程度、サポートグループへの参加の程度等と関連している。③ 2 型糖尿病患者の肯定的な経験には前向きな認識の持ち方や、気晴らし、心の触れ合いがある。2 型糖尿病患者への支援の特徴について以下の 2 点が示唆された。① 看護師の支援は、患者の背景情報を踏まえた生活者としての視点や、患者の過去・現在・未来という生活過程を見据え、ケアの連続的な視点をもって支援を行うという点に特徴がある。② 看護師の支援は、患者への集団教育を効果的に活用しながら個別性に応じた支援を行っていくという特徴がある。2 型糖尿病患者への支援方法とその効果について以下の 2 点が示唆された。① 看護師による 2 型糖尿病患者への支援方法は、患者の自己管理目標を達成したり、学習過程を支援するものであり、その効果として患者の療養生活上の心理的負担感の軽減や行動変容がある。② 看護師による 2 型糖尿病患者への支援方法は、患者の自己管理能力を高める支援であり、その効果として血糖コントロールが図られることや、治療への受容や満足度を高めることがある。今後の課題として、患者の特性、支援の特性、支援による効果として明らかになった知見を活かした患者支援プログラムの構築をすることが挙げられた。

## 文 献

- 1) 厚生労働省. (2013). 平成24年 国民健康・栄養調査結果の概要.  
Retrieved from  
<http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/0000032074.html>  
(閲覧日：2016年7月5日)
- 2) 厚生労働省. (2016). 平成26年度 国民医療費の概況.  
Retrieved from  
<http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/k-iryohi/14/dl/data.pdf>  
(閲覧日：2016年12月8日)
- 3) 日本糖尿病学会：糖尿病治療ガイド2016-2017, 8, 26, 文光堂, 東京, 2016.
- 4) 聖瞳子, 高遠雅志, 九條静, 他：医療における理論的実践とは何か, 学城 (学問への道), 9, 134-164, 2012.
- 5) 佐藤里奈, 安川 力, 加藤亜紀, 他：わが国における視覚障害の原因と現状, 厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患克服研究事業 網膜脈絡膜・視神経萎縮症に関する研究班 平成24年度総括・分担研究報告書, 31-32, 2013.
- 6) 日本透析医学会. (2014). 図説 我が国の慢性透析療法の現況.  
Retrieved from  
<http://docs.jsdt.or.jp/overview/pdf2014/p011.pdf>
- 7) Holman R.R., Paul S.K., Bethel M.A., et al.: 10-year follow-up of intensive glucose control in type 2 diabetes, New England Journal of Medicine, 359(15), 1577-1589, 2008.
- 8) Ohkubo Y., Kishikawa H., Araki E., et al.: Intensive Insulin Therapy Prevents the Progression of Diabetic Microvascular Complications in Japanese Patients with Non-Insulin-Dependent Diabetes Mellitus: a Randomized Prospective 6-Year Study, Diabetes Spectrum, 9(1), 42-43, 1996.
- 9) 医療情報科学研究所：病気がみえる vol.3, 22-29, メディックメディア, 東京, 2014
- 10) 中馬成子：標準化死亡比の高い地域における 2 型糖尿病患者の療養行動の実態：療養行動の継続の看護支援に向けて, 大阪府立大学看護学部紀要, 18(1), 97-106, 2012.
- 11) 餘目千史：2 型糖尿病患者の食事療法への努力と関連要因との関係, 日本糖尿病教育・看護学会誌, 16(2), 163-170, 2012.
- 12) 松田悦子, 川口てる子, 土方ふじ子, 他：2 型糖尿病患者の「つらさ」, 日本赤十字看護大学紀要 (16), 37-44, 2002.
- 13) 友竹千恵, 小平京子, 村上礼子, 他：外来に通院する糖尿病患者の生活上の困難さ, 自治医科大学看護学部紀要, 2, 17-25, 2004.
- 14) 石井千有季, 山田和子, 森岡郁晴：教育入院後に再入院した 2 型糖尿病患者の特徴と再入院に至る要因, 日本看護研究学会雑誌, 35(4), 25-35, 2012.
- 15) 間瀬由記, 白水真理子, 和田美也子：虚血性心疾患を合併し通院中の糖尿病患者の負担感情と影響要因の検討, 日本糖尿病教育・看護学会誌, 12(1), 36-44, 2008.
- 16) 土本千春, 稲垣美智子：一人暮らしの 2 型糖尿病患者にとっての「家族」, 日本看護研究学会雑誌, 35(1), 57-66, 2012.



- 17) 村上美華, 梅木彰子, 花田妙子: 糖尿病患者の自己管理を促進および阻害する要因, 日本看護研究学会雑誌, 32(4), 29-38, 2009.
- 18) 藤永新子, 原田江梨子, 安森由美, 他: 2型糖尿病患者が初回教育入院を決意した「きっかけ」: 自己管理継続のための動機づけ支援の検討のために, 日本慢性看護学会誌, 7(1), 9-16, 2013.
- 19) 小田嶋裕輝, 鷺見尚己, 良村貞子: 2型糖尿病患者のストレス対処力・心理的負担感・医療者の支援との関連性, 看護総合科学研究会誌, 15(1), 17-25, 2013.
- 20) 西片久美子: 外来糖尿病患者に対する電話支援の分析, 日本糖尿病教育・看護学会誌, 10(2), 150-158, 2006.
- 21) 小沢久美子: 後期高齢糖尿病患者の療養生活を支援する訪問看護師のケアの構造化の試み, 日本糖尿病教育・看護学会誌, 14(2), 147-154, 2010.
- 22) 内海香子, 清水安子, 黒田久美子: インスリンを使用する高齢糖尿病患者のセルフケア上の問題状況と看護援助, 日本糖尿病教育・看護学会誌, 10(1), 25-35, 2006.
- 23) 内海香子, 麻生佳愛, 磯見智恵, 他: 訪問看護師が認識する訪問看護を利用する後期高齢糖尿病患者のセルフケア上の問題状況と看護, 日本糖尿病教育・看護学会誌, 14(1), 30-39, 2010.
- 24) 山本裕子, 松尾ミヨ子, 池田由紀: 糖尿病看護経験の豊富な看護師が認識する初期2型糖尿病患者の特徴と教育の実践, 日本糖尿病教育・看護学会誌, 17(1), 5-12, 2013.
- 25) 山岸直子, 外崎明子: 2型糖尿病患者に対する熟練看護師の姿勢とアセスメント 食事療法の自己管理が困難な患者の支援に向けて, 日本糖尿病教育・看護学会誌, 14(2), 138-146, 2010.
- 26) 彦聖美: 糖尿病患者の疾病受容を支援する糖尿病を専門とする看護師の判断プロセスの可視化, 日本糖尿病教育・看護学会誌, 16(1), 5-14, 2012.
- 27) 日向野香織, 柴山大賀, 白鳥和人, 他: 遠隔看護における看護介入法の効果 相互目標の設定を用いて, 日本遠隔医療学会雑誌, 8(2), 166-169, 2012.
- 28) 東ますみ: 2型糖尿病患者に対する遠隔看護介入の自己管理行動への影響, 日本遠隔医療学会雑誌, 8(2), 158-161, 2012.
- 29) 太田美帆, 谷本真理子, 三浦美奈子, 他: 弁当箱法を活用した糖尿病患者に対する食支援 (第2報) 食生活の目安形成を促すための成人教育に基づく看護師の支援の分析, 日本糖尿病教育・看護学会誌, 15(2), 145-153, 2011.
- 30) 大原裕子, 清水安子, 正木治恵: 身体の心地よさに働きかける看護援助 糖尿病患者に対するマッサージを介したセルフケア援助をとおして得られた患者の反応より, 日本糖尿病教育・看護学会誌, 14(1), 11-21, 2010.
- 31) Liu Y., Maier M., Hao Y., et al.: Factors related to quality of life for patients with type 2 diabetes with or without depressive symptoms - results from a community-based study in China, Journal of Clinical Nursing, 22(1-2), 80-88, 2013.
- 32) Huang M., Hung C.: Quality of life and its predictors for middle-aged and elderly patients with type 2 diabetes mellitus, Journal of Nursing Research [Taiwan Nurses Association], 15(3), 193-201, 2007.
- 33) Huang M.-C., Hung C.-H., Stocker J., et al.: Outcomes for type 2 diabetes mellitus patients with diverse regimens, Journal of Clinical Nursing, 22(13-14), 1899-1906, 2013.
- 34) Chen M.-Y., Huang W.-C., Peng Y.-S., et al.: Health status and health-related behaviors among type 2 diabetes community residents, Journal of Nursing Research [Lippincott Williams & Wilkins], 19(1), 35-42, 2011.
- 35) Yamakawa M., Makimoto K.: Positive experiences of type 2 diabetes in Japanese patients: an exploratory qualitative study, International Journal of Nursing Studies, 45(7), 1032-1041, 2008.
- 36) Wallymahmed M., MacFarlane I.: The value of group insulin starts in people with type 2 diabetes, Journal of Diabetes Nursing, 9(8), 287-290, 2005.
- 37) Spencer J.: Type 2 diabetes and hypertension in older adults: a case study. Nursing Standard, 24(32), 35-39, 2010.
- 38) Phillips A.: Starting patients on insulin therapy: diabetes nurse specialist views, Nursing Standard, 21(30), 35-40, 2007.
- 39) Edwall L., Hellström A.L., Ohrn I., et al.: The lived experience of the diabetes nurse specialist regular check-ups, as narrated by patients with type 2 diabetes, Journal of Clinical Nursing, 17(6), 772-781, 2008.
- 40) Lucas S.: The missing link: district nurses

- as social connection for older people with type 2 diabetes mellitus, *British Journal of Community Nursing*, 18(8), 388-397, 2013.
- 41) Chan M.F., Yee A.S.W., Leung E.L.Y., et al. : The effectiveness of a diabetes nurse clinic in treating older patients with type 2 diabetes for their glycaemic control, *Journal of Clinical Nursing*, 15(6), 770-781, 2006.
- 42) Shi Q., Ostwald S.K., Wang S. : Improving glycaemic control self-efficacy and glycaemic control behaviour in Chinese patients with Type 2 diabetes mellitus: randomised controlled trial, *Journal of Clinical Nursing*, 19(3-4), 398-404, 2010.
- 43) Rosmawati M., Rohana A.J., Manan W.A. : The Evaluation of Supportive-Developmental Nursing Program on Self-Care Practices of Persons with Type 2 diabetes at the Health Centre in Bachok, Kelantan, *Self-Care, Dependent-Care & Nursing*, 20(1), 16-22, 2013.
- 44) Young R.J., Taylor J., Friede T., et al. : Pro-Active Call Center Treatment Support (PACCTS) to improve glucose control in type 2 diabetes: a randomized controlled trial, *Diabetes Care*, 28(2), 278-282, 2005.
- 45) Long A.F., Gambling T., Young R.J., et al. : Acceptability and satisfaction with a telecarer approach to the management of type 2 diabetes, *Diabetes Care*, 28(2), 283-289, 2005.
- 46) Dellasega C., Gabbay R., Durdock K., et al. : Motivational interviewing to change type 2 diabetes self-care behaviours, *Journal of Diabetes Nursing*, 14(3), 112-118, 2010.
- 47) Forbes A., Berry J., While A., et al. : A pilot project to explore the feasibility and potential of a protocol to support district nurses in the assessment of older frail people with type 2 diabetes, *NT Research*, 9(4), 282-294, 2004.
- 48) Piette J.D., Lange, I., Issel, M., et al. : Use of telephone care in a cardiovascular disease management programme for type 2 diabetes patients in Santiago, Chile, *Chronic Illness*, 2(2), 87-96, 2006.

# Literature Review of Nursing Support for Patients with Type 2 Diabetes Mellitus

Yuki Odajima

School of Nursing, Nagoya City University

## Abstract

The purpose of this study was to gain knowledge about characteristics of patients with type 2 diabetes, characteristics of support, and effects of such support, by organizing the trends in domestic and international research on nursing for patients with type 2 diabetes. The results suggested that, regarding characteristics of patients with type 2 diabetes, their difficulties are most likely high in treatment behaviors, the need for nurses to provide treatment support is high, and QOL of patients with type 2 diabetes is associated with complication history, treatment content, self-care behavior, degree of social support, and degree of participation in support groups. As for characteristic of support for patients with type 2 diabetes, the study revealed that nursing support is undertaken with a perspective of sustained care, from a liver standpoint based on patients' background information, and taking into account the process of patients' life in the past, present, and future. Regarding the support method and its effects, the study revealed that nursing support method for patients with type 2 diabetes was aimed at achieving patient self-management goals, and assisting the learning process, and it was effective in reducing the psychological burden and changing the behavior in patients' daily living under treatment.

**Key Words:** type 2 diabetes mellitus, patient, nursing support